

「ラボ交換型生命医科学研究コンソーシアムの立体展開」プログラムの報告書

早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医学専攻

佐藤信孝

「ラボ交換型生命医科学研究コンソーシアムの立体展開」プログラムに参加し、シンポジウムの中で印象に残った点を記していく。口頭セッションでは **Dr. Barbara Mazzolai (IIT)** と **Dr. Sato Hiroataka (NTU)** の発表内容が非常に印象に残った。**Dr. Barbara** の植物の根の成長過程を模倣したセンシングモデルは高度な機械工学の技術が組み込まれていた。脳外科手術への応用の提示は。また、**Dr. Sato** のカブトムシの空中での動きの制御は制御するための μ チップに高度な技術があり、この実験結果を撮影するための実験設備をあることにも非常に驚いた。

また、セッション終了後にバイオポリスにある早稲田の研究施設(WABIOS)を訪問した。WABIOS では高性能なレーザー顕微鏡や実体顕微鏡があり、バイオイメージングの実験環境が整った充実した施設だった。WABIOS 前で学部時代の学生実験で大変お世話になった宗先生にお会いし、励ましの言葉を頂いた。(写真添付)

「ラボ交換型生命医科学研究コンソーシアムの立体展開」プログラムに参加し、シンガポールにある充実した実験設備・環境やシンガポール大学(NUS)の学生の研究内容・プレゼンテーション能力の高さに非常に刺激を受けた。



WABIOS 訪問時の写真